

遊びを通して、子どもの生活体験を豊かにするために

調査結果から幼稚園・こども園や家庭、地域において、子どもの生活体験を豊かにしていくために、以下の提言をする。



提言1 体や手先の多様な動きが経験できる豊かな遊びをしよう。

- ▶ 自ら環境に関わり、体や手先を多様に動かしながら、繰り返し楽しさを感じて遊べるように、援助や環境を工夫する。
- ▶ 園生活の中で手先を使う機会を意図的・計画的につくり、幼児が手先を使う経験を重ね、やりたい遊びを友達と十分に楽しめるようにする。

- 体を使った遊びから手先を使う遊びまで、友達と繰り返し楽しめるようにしよう!
- 結ぶ・絞る・包む・持つなどの手先を使う体験を、毎日の園生活に組み込もう!
- 手先を使った遊びの指導について研修し、実践しよう!
- 体と手先を使った遊びを指導計画にバランスよく位置づけよう!

提言2 生活体験を豊かにすることの大切さを保護者と共有し、親子での関わりを広げよう。

- ▶ 家庭生活の中でできるいろいろな経験を保護者に伝え、幼児が喜んで挑戦するような、親子での関わりを深める。
- ▶ 家庭でできる手先を使った遊びの楽しさを、親子で感じながら生活体験を豊かにする。

- 身支度を整えること、箸を使って食事をするなど、自分でできる喜びや自信をもたせよう!
- 料理や掃除等、親子で一緒にやってみよう!
- 親子で一緒に昔遊びを楽しもう!
- 身近な物を使って、親子で製作をしてみよう!

提言3 地域との関わりを広げ、子どもたちに豊かな生活体験ができるようにしよう。

- ▶ 生活の中に、地域の伝統文化や自然を取り入れながら、幼児の興味・関心や意欲を育み、多様な経験ができるようにする。
- ▶ 地域の人材を活用したり、地域の教育施設等を利用したりして、生活体験を豊かにする。

- 地域の行事やイベントへの参加を呼びかけよう!
- 地域の特性を知る機会をつくろう!
- 地域の人と触れ合い、体を動かしたり、手先を使って遊んだりしよう!
- 園で地域の人材を活用しよう!
- 地域の教育施設を親子で活用できるようにしよう!

編集・執筆 特別事業推進委員

委員長	高橋 慶子	目黒区立げっこうはらこども園
副委員長	阿内三智子	板橋区立高島幼稚園
委員	斉藤 悦子	浦安市立舞浜認定こども園
委員	山口 晃司	中央区立有馬幼稚園
委員	石井まゆみ	浦安市立入船南幼稚園
委員	泉 雅美	文京区立青柳幼稚園
委員	足立 祐子	台東区立大正幼稚園
国公幼会長	岩城眞佐子	中央区立月島幼稚園
同副会長	関 美津子	練馬区立北大泉幼稚園
同事務局長	楚阪 博	国公幼事務局

特別事業ブロックキャンペーン・研修会担当

東北・北海道	佐々木恵理子	盛岡市立太田幼稚園
関東・甲信越	佐藤 博子	新潟市立沼垂幼稚園
東海・北陸	松尾富紀子	白山市立松任幼稚園
近畿	西出 紀子	甲賀市立伴谷幼稚園
中国	青木 博子	岡山市立西大寺幼稚園
四国	大西由美子	伊予市立北山崎幼稚園
九州	三宮 知恭	大分市立津留幼稚園

発行日 平成28年3月10日
編集発行 全国国公立幼稚園・こども園長会 会長 岩城眞佐子
住所 〒113-0034 東京都文京区湯島 1-5-28 ナーベルお茶の水208

電話 03 (5684) 2240
FAX 03 (5684) 2174
E-mail entyukai@kokkoyo.com
ホームページ http://www.kokkoyo.com



こころとからだ！ 親子で楽しもう！遊びと生活



子どもの生活体験を豊かにするために

会長 岩城 眞佐子

幼児は、全身を動かして遊び、いろいろな動きを経験することによって、遊びや生活に必要な知識や技能を身に付け、目的を実現していくことができるようになっていきます。また身の回りのことを自分で行うことで、生活習慣の自立を図っていきます。しかし、便利で快適な生活様式などによって、子どもたちの生活体験が乏しくなっているという指摘もあります。社会の環境が変化しているからこそ、積極的に生活体験を広げ、豊かにしていく工夫が求められます。

では、幼児期に豊かな遊びを通して、いろいろな体験を積むために、園や家庭では、何を大切にすべきなのでしょう。アンケート調査をもとに、園生活と家庭生活の中での幼児の実態や教員と保護者の意識や課題が見えてきました。

考察を通して、子どもの生活体験を豊かにしていく身近な取り組みや親子の関わりを広げていく大切さを感じました。さらに各ブロックで取り組んだ親子体験型キャンペーン研修会の成果も生かして、幼児期の生活体験を考えていきましょう。

最後になりますが、本年度の事業推進にご協力いただいた多くの皆様に、感謝申し上げます。

事業名：遊びを通して、子どもの生活体験を豊かにする調査研究 「こころとからだ！親子で楽しもう！遊びと生活」

事業のねらい

幼児の生活体験に関する実態調査を行い、遊びを通じた親子の触れ合いを広げ、幼児の生活体験を豊かにすることをねらいとし、2年間の調査研究を行う。

1年次

幼稚園・こども園や家庭における幼児の生活体験や手先・指先を使った遊びに関する実態や、家庭生活での生活習慣や親子の関わりなどの実態調査を実施。
親子の関わりを楽しみながら生活体験を豊かにする全国キャンペーン研修会の実施。

2年次

幼児にとって望ましい親子の関わり方について明らかにし、幼児の生活体験を豊かにするための在り方を探る。
さらに、実践内容・方法に工夫を重ね、実践化を促す全国キャンペーン研修会を、全国7ブロックで実施。

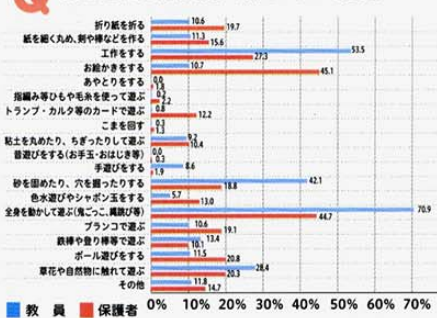
子どもの生活体験に関する実態調査と意識についての調査

＜調査実施期間：平成27年10月～11月 回答者数：保護者2129名 教諭665名＞
調査結果から幼児の生活体験に関する実態や教諭、保護者の意識の傾向について以下のように読み取りました。

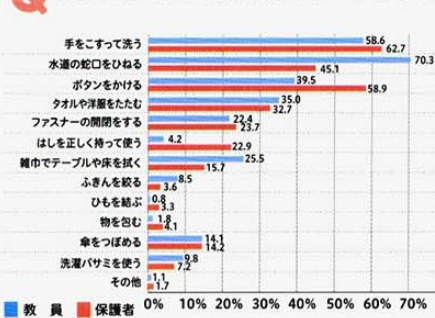
子どもの実態

子どもの好む遊び 子どもの生活技能

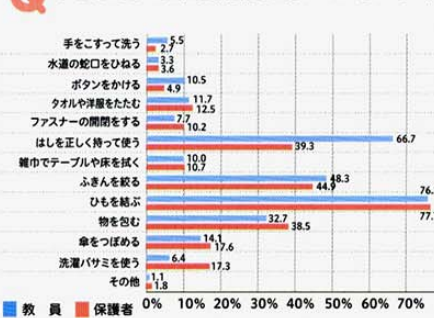
子どもたちが好んで行っている遊び



子どもたちの生活技能(身に付いているもの)



子どもたちの生活技能(身に付いていないもの)

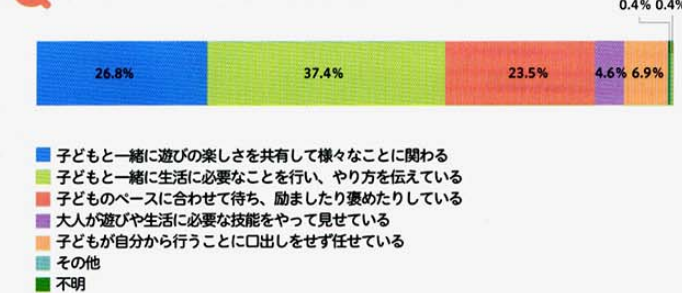


子どもは、全身を動かして遊ぶことや手先を使って遊ぶことが好きである。しかし、子どもの遊ぶ環境が家庭・地域と園内とで違うことが、保護者の回答の数値にばらつきがあることから分かる。特に、「お絵かきをする」、「工作をする」、「砂を固めたり、穴を掘ったりする」の保護者と教諭の数値差は大きい。一方、子どもの生活技能に対する保護者と教諭の認識はほぼ同じである。「水道の蛇口をひねる」「手をこすって洗う」といった手を使う技能は身に付けているが、「ひもを結ぶ」「はしを正しく持つて使う」といった手先を使う技能は十分に身に付けていないと捉えている。

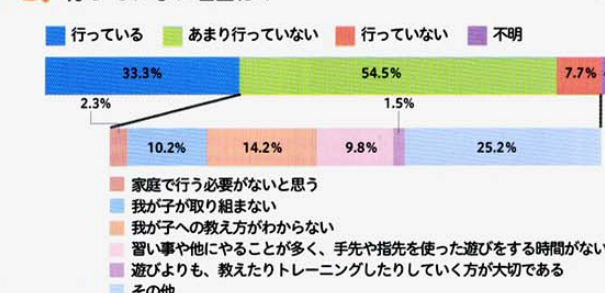
保護者の実態

手先を使って遊ぶことや生活技能の必要性

子どもが生活技能を身に付ける際の接し方は？



家庭で手先を使った遊びを意識して行っていますか？ 行っていない理由は？

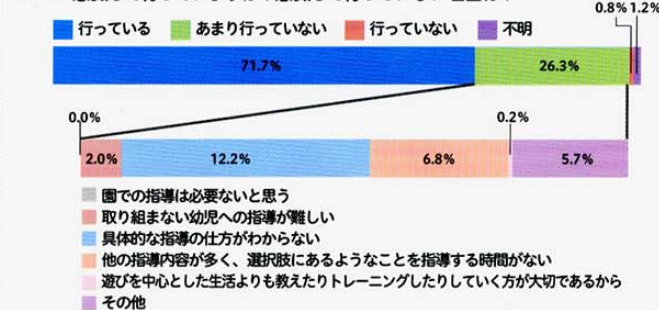


ほとんどの保護者が、我が子が生活技能を身に付けることへの関心は高く、子どもへの関わり方は実際にやり方を伝えるなど、丁寧な関わりを行っている。一方で、家庭で手先を使った遊びを意識して行っているとの回答は、33.3%にとどまっている。その理由として、「我が子への教え方がわからない」、「我が子を取り組まない」の回答があった。また、家庭で手を使った遊びを意識して行っていない理由の「その他」の自由記述では、「自然に身に付く」「意識していない」といった回答もあった。

教諭の実態

手先・指先を使った指導への迷い

保育の中で「生活を豊かにするために、手先や指先を使った遊びをする」ことを意識して行っていますか？意識して行っていない理由は？

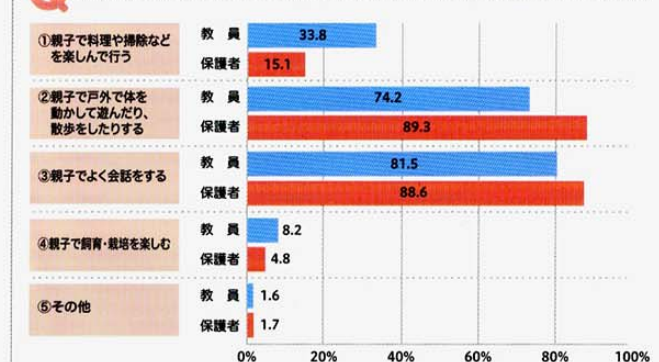


「生活を豊かにするために、手先や指先を使った遊びを行っている」と回答した教諭は71.7%である。多くの教諭は日々の活動の中で、生活を豊かにするための手先や指先を使った遊びを意識的に取り入れている。一方、手先や指先を使った遊びを行わないと回答した教諭の約半数が、「具体的な指導の仕方がわからない」「取り組みやすい幼児への指導が難しいから」と指導の悩みを、その理由として挙げている。発達に必要な動作が身に付くための経験として、教諭は幼児の興味・関心や発達を捉え、多様な活動の工夫を行い、手先を使う経験を取り入れている。中でも「当番活動や日常生活の中で、意図的にタオルやハンカチをたたんだり絞ったりする活動を毎日取り入れる」「製作遊びをする」「意図的に遊びの中で細かい遊具や繰り返し使って遊べる環境をつくる」などの活動がよく取り入れられている。

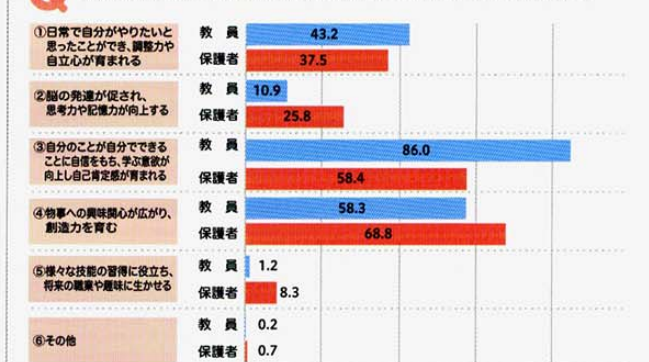
教諭と保護者の意識①

豊かな体験のために大切にしたいこと

幼児にとっての豊かな体験を考える時に、大切にしたいことは？



幼児期の豊かな生活体験は何につながると考えますか？

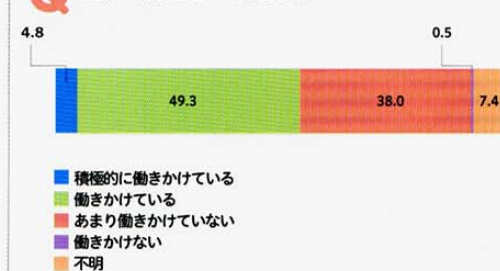


豊かな体験のために大切にしたいことは、保護者も教諭も同じ認識である。「親子で戸外で体を動かして遊んだり、散歩をしたりする」「親子でよく会話をする」の回答が両者共に多く、日常生活の中での親子の触れ合いや会話を大切にすることが高い。幼児期の豊かな体験がどのような育ちにつながるのか、保護者と教諭の認識の傾向は似かよっている。しかし、「脳の発達が促され、思考力や記憶力が向上する」「自分のことが自分でできることに自信をもち、学ぶ意欲が向上し自己肯定感が育まれる」の回答で保護者と教諭に差が生じたのは、考え方による。

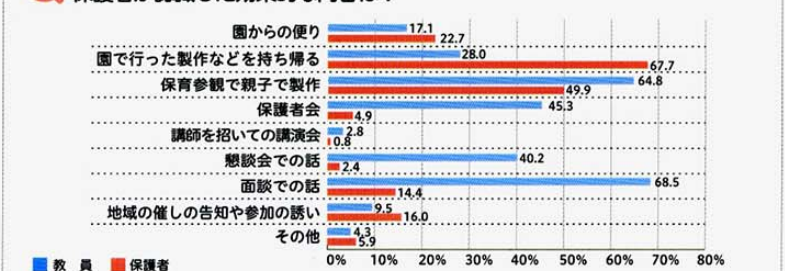
教諭と保護者の意識②

園からの発信とその工夫

園から保護者への発信は？



園から保護者への発信の効果的な内容は？ 保護者が認識した効果的な内容は？



園から保護者への発信は、半数以上の園が何らかの形で働きかけを行っている。一方、「あまり働きかけていない」「働きかけていない」との回答が約4割近くあり少なくない。園から発信される情報等と、受け手の保護者が求めている内容に違いがある。教諭は教育的意義を話の内容として伝えることを重視するのに対し、保護者は具体的な製作物や製作に関わる情報といった家庭での取り組みに役立つ情報を求めている。



体や手先を使って遊ぶ楽しさと動かすことの大切

岩手県国公立幼稚園協議会

① 東北・北海道ブロック

実施日 平成27年10月10日(土) 会場 盛岡市子ども科学館

参加人数 [計103名]

★園児44名 ★保護者40名
★園長11名 ★教員8名

親子で「ふしぎ」と遊ぼう

受付	開会式	A:洗剤で遊ぼう B:空気うきうき実験	休憩	A:空気うきうき実験 B:洗剤で遊ぼう	閉会式
9:30	9:45	10:00	10:45	11:00	11:45

洗剤で遊ぼう 講師 盛岡市子ども科学館 山本 理恵子

家庭用台所洗剤を使い、実験を通して親子で「ふしぎ」をたくさん楽しんだ。

- 針金でアメンボを作り水に浮かせた。
- 触っても割れないシャボン玉を作った。
- 途切れなく出てくるシャボン玉のショーを見た。



空気うきうき実験 講師 盛岡市子ども科学館 鈴木 樹璃

目に見えない空気を、実験を通して感じとり親子で「ふしぎ」をたくさん楽しんだ。

- ストローの先を切り、息を吹きながら、発砲スチロール球を浮かせた。
- 風の力で風船を浮かせた。
- 空気砲から打ち出される煙を見た。



参加者の声 子どもだけでなく、大人にとっても楽しい時間だった。親子で一緒に楽しむことができた。身近な物でこんなに楽しめることを知った。家庭でもやってみたい。実際に体験することの大切さを感じた。実験をしてみて分かったときの感動が大きかった。

石川県国公立幼稚園教育研究会

③ 東海・北陸ブロック

実施日 平成27年11月1日(日) 会場 白山市松任総合運動公園体育館

参加人数 [計318名]

★園児93名 ★小学生30名 ★未就園児16名 ★保護者106名
★園長・副園長30名 ★教諭29名 ★教育委員会・行政その他14名

みんなあつまれ!親子で脳育て ～いっぱい使おう手先・指先・脳げんき～

受付	開会式	親子でリズム遊び	園児移動	遊びの広場(園児)&講演(保護者)	移動	閉会式
13:00	13:30	13:50	14:30	15:00	16:15	16:20

親子でリズム遊び

講師 音楽研究所主宰 カムジー

いろんなリズムを楽しんじゃおう!
♪ 親子で早起きリズム体操
♪ お父さんもパフォーマンス!
♪ 大太鼓、中太鼓、小太鼓!タンバリン!
スズ、フライパン!
カムジーさんが叩くリズムを手拍子で模倣して楽しんだ。



遊びの広場

園児、小学生が好きなコーナーで、手先・指先を使った遊びを楽しむ。

- お手玉・折り紙・竹ぼうくり
- ボタンかけ遊び・タペストリー
- どんぐり製作のコーナー
- 紙飛行機飛ばし
- ペットボトルビーズのストラップ作り



講演「脳を育む運動遊びが幼児のころと知恵を伸ばします」

講師 文教大学教育学部教授 成田 奈緒子

大切な「脳育て」の話を聞いた。「脳育て」は生活習慣と生活リズムが大切である。手先・指先を使うことで脳が活性化。十分な睡眠と毎日の繰り返しが「脳育て」につながる。



参加者の声 親子で楽しく参加することができ良かった。今の時期に親との関わりが大切だということからも、メディアを制限して基本的な生活を今一度、大事にしたいと思った。手先を使った遊び、体を使った遊びをどんどん増やしたり、リズム遊びも取り入れたい。

新潟県国公立幼稚園・こども園協会

② 関東・甲信越ブロック

実施日 平成27年8月21日(金)会場 新潟市いくとびあ食花(こども創造センター、食育・花育センター)

参加人数 [計343名]

★園児128名 ★保護者113名 ★園長16名
★教員54名 ★その他32名

親子でつくって楽しもう! ～手先・指先を使って豊かな感性を育もう!～

受付	親子参加型ワークショップ(新潟・下越地区の親子)	受付	親子参加型ワークショップ(上越・中越地区の親子)
9:50	10:00	10:50	11:00

光と音で楽しもう



親子で紙を切ったり、つないだりしたものを、ブラックライトで暗闇に浮かたせたり、影絵で遊んだりして楽しんだ。

身近な素材で楽しもう

様々な形の木片からイメージを広げ、組み合わせで好きなものを作り、ゆび絵の具の感触や木の温もりを楽しんだ。



草花で遊ぼう



身近な花の押し花を使ってイメージを膨らませ、自分だけの「オリジナルメダル」を作り、物づくりの喜びを味わった。

参加者の声 ブラックライトの不思議な世界や、ゆび絵の具等でのアートは、家ではさせなかった体験ができた。親子でじっくり製作でき、とても楽しかった。物が出来上がる喜びを感じることができた。家でもいろいろな製作等にチャレンジさせたい。

滋賀県国公立幼稚園・こども園長会

④ 近畿ブロック

実施日 平成27年10月17日(土) 会場 甲賀市信楽体育館

参加人数 [計232名]

★園児40名 ★未就園児7名 ★保護者47名
★園長60名 ★教員49名 ★その他29名

親子で粘土遊び ～親子で手指をいっぱい使って、土粘土遊びを楽しもう～

受付	開会式	つちっこプログラムによる親子粘土遊び	閉会式
9:30	10:00	10:15	11:30

講師 滋賀県立陶芸の森 学芸員 田中 南央 津守 愛香

滋賀県立信楽高校の陶芸部顧問と生徒の皆さんと一緒に郷土の粘土を使い、親子で見・触れて感じてわくわく楽しい粘土遊びをした。

親子で2kgの粘土を使って

- 粘土をたいて、つまんで、小さい丸玉をいっぱい作った。
- 小さい丸玉をまとめて落としたり、こねて長い長い粘土を作ったりした。



粘土の塊を使って

- 全身を使って粘土のじゅうたんを踏んだり、みんなで丸めて塊にしたりして遊んだ。



★ポスター掲示 甲賀市立・湖南市立の幼稚園の実践の紹介

参加者の声 家ではできない信楽ならではの土粘土の良さを、しみじみと実感した親子体験になった。郷土の特性を生かし、信楽の土粘土を自由自在に使って遊ぶ体験は、貴重な体験だと思う。粘土に触れながら気持ちを解放し、表情豊かになっていく子どもたちの姿が見られた。

さを体験するキャンペーン・研修会

総参加人数 1,867名



岡山県国公立幼稚園・こども園長会

⑤ 中国ブロック

実施日 平成27年11月7日(土) 会場 岡山市ピュアリティまきび

参加人数 [計139名]

- ★園児50名 ★保護者46名
- ★園長41名 ★教員2名

おって つくって 一緒に遊ぼう！ ～親子で楽しむ折り紙遊び～

受付	開会式	3・4歳児親子遊び	休憩	4・5歳児親子遊び	閉会式
12:45	13:00	13:15	14:15	14:30	15:30
					15:45

「新聞紙・折り紙で遊ぼう」

講師 就実大学教育学部初等教育学科
准教授 柏 まり

★3・4歳児親子、4・5歳児親子で新聞紙コプターを作り、伸び伸びと飛ばして遊んだ。
折り紙でコマや手裏剣、紙ひこうきを作り、作ったものを使って親子で楽しく遊んだ。

- 新聞紙コプター ●紙ひこうき ●かんたん手裏剣(3・4歳児)
- かわり手裏剣(4・5歳児) ●フーフーコマ(3・4歳児)
- 3枚でつくるコマ(4・5歳児)



参加者の声 子のみならず親も集中し、親子で楽しむ遊びとしてとても良い内容だった。
折り紙を折る楽しさと遊ぶ楽しさの両方があり、とても楽しいと感じた。
遊びの中で手指や手首を使う経験が脳には、とても大切であることを学ぶことができた。

大分県国公立幼稚園・こども園長会

⑦ 九州ブロック

実施日 平成27年7月28日(火) 会場 大分市大分県教育会館

参加人数 [計192名]

- ★園児48名 ★保護者48名 ★園長18名
- ★教員60名 ★小中学生16名 ★その他2名

竹とあそぼう ～スーパー竹とんぼを親子で作ってとばそう～

受付	開会式	講師説明	親子で竹細工を楽しむ活動	閉会式
9:30	10:00	10:15	10:20	11:30
				11:40

スーパー竹とんぼづくり

講師 スーパー竹とんぼ名人
柿口 法之



日本記録をもつスーパー竹とんぼ名人より、作り方の実演、説明があり親子でスーパー竹とんぼをつくった。
名人や地域の敬老会の方も指導してくれた。

- ①親子で竹とんぼの羽をやすりで削る
- ②バランスがとれるように何度も試しながら仕上げる
- ③ロウソクの火であぶりながらひねりを加える
- ④園児がとばし方を親に聞きながら天井までとばす(30mほど)

「昔遊びコーナー」も用意して、お手玉、けん玉、あやとり等を幼稚園教員と一緒に遊んだ。



参加者の声 竹とんぼが飛ぶまで何度も何度も挑戦し、天井まで飛んだ時は、とても嬉しかった。
自分たちで遊び道具を作ることが子どもたちにとっても親にとっても良い経験だった。
竹を削って指先でなでてみたり感触を楽しんだりすることができた。

愛媛県国公立幼稚園・こども園教育研究協議会

⑥ 四国ブロック

実施日 平成27年10月28日(水) 会場 伊予市伊予市民体育館

参加人数 [計540名]

- ★園児233名 ★未就園児66名 ★保護者203名
- ★園長4名 ★教員26名 ★その他8名

親子で楽しもう！！ ～からだや指先を使って、じっくり にっこり～

受付	開会式	コーナー遊び	移動	ふれあい遊び	閉会式
9:00	9:15	9:30	10:45	11:00	11:45
					12:00

コーナー遊び「親子で楽しもう！」

紙飛行機、折り紙、ひも通し、木の玉プール、リトミック等を、各コーナーで楽しんだ。親子で一緒に協力し、繰り返して作ることを楽しんだ。



ふれあい遊び「親子でからだを動かして楽しもう！」

講師 日本3B体操協会指導士 西山 みゆき
健康運動実践指導者

準備運動から始まり、親子でチューブやボール、ベルター等の器具を使って、体を動かす遊びを楽しんだ。



参加者の声 コーナー遊びでは、親も遊びを楽しんだ。
カプラや木の玉プールでは、木の香りに癒されて良かった。
ふれあい遊びの動きは簡単ではあったが、親子で汗をかくて楽しかった。

ブロックキャンペーン・研修会の成果と課題

研修会では、家庭ではできない生活体験を中心とした親子体験型ワークショップや、心と体と手先を動かすことの楽しさや大切さについて学ぶ講演会などに取り組んだ。その結果、次のような成果と課題があった。

成果

保護者は…

- 子どもと触れ合いながら普段できない経験ができ、楽しさを実感できた。
- 子どもの考えている姿や一生懸命取り組んでいる姿を見て、作るという体験が子どもの成長に大切だと分かった。
- 夢中になって遊ぶことにより心が開放され、表情がどんどん豊かになっていく子どもの姿が見られ、嬉しくなった。

教諭は…

- 幼児が試行錯誤を繰り返して自分の手で作ったり、親子で遊んだりすることは、幼児期には欠かせない経験だと再認識した。
- 親子一緒に体や手先を使った遊びを体験することは、幼児に様々な力を育むということが分かった。
- 親子で郷土の特性を生かしたものを作る体験は、作るための技能を学ぶだけでなく、郷土愛を深めるよい機会となった。

今後の課題

- 生活体験を豊かにするためには、地域の人材や特性を生かした環境を意図的・計画的に構成していく必要がある。
- 体や手先を使って遊ぶことや、親子と一緒に体験することの重要性を、さらに情報として発信していくことが課題である。



行動化を促すためのキャラクター
「チャレンジくん」